

サイ・テフ こころ・知と技の発信

【189】

埼玉大学・理工学研究の現場

■都市の在り方
住む、働く、憩う、などの都市活動を支える交通は、活動自体が豊かになるにしたがって、同じく「豊か」になっていかなければなりません。観点から都市の在り方を考えています。

■オープンカフェ
動性)をどのように確保すればよいのか、といった新たな課題も鮮明になっています。私の研究室では、主に交通の

とりのわけ、都市生活に不可欠があります。それどころか、少ない自動車の存在を活かしなが

ら、歩行、自転車、バスなどの利用をどのように活性化するか、



くぼた・ひさし 1958年生まれ。東京大学大学院工学系研究科(都市工学)修了。工学博士。埼玉大学助手、助教授を経て2005年4月から現職。専門は都市交通計画、交通工学

交通でまちづくり

久保田 尚 大学院理工学研究科 教授



か、また、それらのさまざまな交通手段を、都市空間の中でどのように共存させるか、という課題に、全国各地で取り組んでいます。交通の観点からまちづくりを考える、いわゆる交通ま

ちづくりと呼ばれる取り組みで、たとえば、大宮駅西口では、地元有志やさいたま市によって、駅前通りを通行止めにしてオープンカフェにするイベントが年数回行われています。道路にはさまざまな役割があり、駅前のにぎわいを作り出すために、人々が語りつたり、飲食を楽しんだりする空間として道路が活用できるか、という実験です。

タ)に基づいて、ネットワーク上の交通の姿をシミュレーションするものであり、アニメーション表示と統計分析によって施策の事前評価を行うシステムです。これを使えば、道路を通行止めにした場合の影響などを評価できます。

■より良いまちへ
コンピュータによる事前評価によってある程度の実現性が認められた後は、社会実験を実施します。いきなり本格実験を始めてしまうと、思わぬ課題が見つかることがあるからです。

■交通シミュレーション
こうした取り組みを進めるうえで必要となるのが、評価手法の確立です。駅前道路を通行止めにする事によって、周辺道路に大きな渋滞が発生することはやはり避けたいところです。

このように、交通まちづくりという取り組みには、工学的手法と地域実践の両方が欠かせません。今後も、埼玉県をはじめとする各地で、より良いまちづくりに向けた取り組みを進めていきたいと思っています。

オープンカフェ実施中の大宮駅西口

このように、交通まちづくりという取り組みには、工学的手法と地域実践の両方が欠かせません。今後も、埼玉県をはじめとする各地で、より良いまちづくりに向けた取り組みを進めていきたいと思っています。

埼玉経済

企業、団体、商店街などの話題や情報をお寄せください
TEL 048・795・9161 FAX 048・653・9040
keizai@saitama-np.co.jp